

事後評価報告書  
(日本-中国(NSFC)研究交流)

1. 研究課題名: 環境調和型高効率廃棄物燃焼・熱分解/ガス化技術に関する共同研究

2. 研究代表者名:

日本側: 名古屋大学大学院工学研究科機械理工学専攻 教授 成瀬 一郎

相手側: Huazhong University of Science and Technology, State Key Laboratory of Coal Combustion Professor Hong Yao

3. 総合評価: A

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

日本側のゴミ処理に関する知見を活用して、中国の廃棄物処理システムの高効率化のための検討が進み、焼却システムの効率化に貢献しうる大きな成果が得られている。環境調和型の高効率焼却炉の開発のために、模擬ごみの基礎的燃料機構を解明したことは評価できるものの、中国側の成果が日本側へどのように波及されたかがやや曖昧である。もう少し判りやすく本事業の報告書に説明があれば良かった。両国の研究交流により、3編の論文が共同執筆された事は評価に値するが、人的交流が活発であったにも関わらず、連名の学会発表がないのは、共同研究の役割分担などの実行計画が精査されていなかったように思われる。

(2)交流活動の評価について

学生の訪問・若手研究者の招聘など非常に多くの人的交流がなされた。特に日本側の学生の研究参加者が多く、学生相互の交流が行われたことは、将来の国際的に活躍する人材育成に繋がるものであり、本事業の趣旨に合致している。相互訪問とワークショップ・セミナーなどによって研究ネットワークができており、今後の展開が期待できる。しかしながら、訪問・招聘は短期なものばかりで研究者の長期派遣、お互いの施設での共同研究をもう少し行うべきであった。また、中国側の研究参加者に学生が少なかったことも残念である。

(3)その他

本事業によってゴミ分別がなされていない中国における廃棄物行政への助言・貢献がなされるものと期待できる。